

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491500021		
法人名	社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会		
事業所名	鹿島台支所 グループホーム和楽路		
所在地	宮城県大崎市鹿島台広長字尻掛杉ヶ崎7番1		
自己評価作成日	平成28年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成28年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1.面会、季節の行事他、年4回家族報告会を実施し、ご家族様、入居者様、スタッフとの交流を図っている。</p> <p>2.和楽路だよりを月1回発行し、生活の様子、ボランティアの支援の様子などを伝えている。</p> <p>3.運営推進会議を中心とし、地域密着型の基盤を大切にしながら地域の方々が訪問できる体制作りを行っている。</p> <p>4.和楽路を多く知って頂く為にホームページを活用して和楽路の最新情報を掲載している。</p> <p>5.総合防災訓練を年2回行い、その際には地域の方々、民生委員の方々に応援して頂きながら、更なる地域密着を図っている。</p> <p>6.ボランティアとのつながりを多く持ちインフォーマルな資源を活用している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>大崎市社会福祉協議会が運営し、鹿島台広長の高台に位置する広い敷地に建つ平屋建てのホームは、日当たりが良く、家庭的で落ち着いた雰囲気である。職員は経験年数を重ねたベテランが多く、更に研鑽に努めている。防災、危機管理、個人の尊厳を重視しており、必要に応じ職員間で話し合い改善しようとする姿勢が大きい。利用者と家族別々に、事業所独自の「満足度調査」を行っている。大崎市の「あんしん介護相談員」が年2回来訪し、利用者に要望を聞いている。町内会に加入し、地域との交流を大切にしている。毎月、大正琴やブックポケットの紙芝居、歌や踊りのボランティアが来訪する。地域の方々による除草作業等の協力も得られている。お茶会や夏祭り開催等、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。「グループホーム和楽路だより」を毎月発行し、情報発信をしている。利用者の買い物支援の検討をしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH和楽路 ）「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前年度に理念について職員で話し合いを行っております。今年度については継続となっております。管理者、職員が理念を共有しながら入居者一人ひとりに合った支援や個人の尊重、尊厳を大事にした関わりを行っています。理念、方針は事務室と食堂に掲示し、統一事項などについてはホーム会議で話し合いを行っている。	食堂と事務室の壁に大きく掲示し、利用者の思いや意向を尊重し、明るく笑顔で接するよう心がけている。常にホーム会議等で理念について立ち返っている。年度末に理念について見直しが必要かどうか話し合い、意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、ボランティアの来所による歌や踊り等演芸が行われている。また、行政区の子供神輿や、近隣の方々に案内を出しお茶会を年4回開催している。お茶会や夏まつりについては民生委員、近隣の方々の協力を頂いている。	毎月、大正琴や紙芝居、歌や踊りのボランティアが来訪する。地域の方々による除草作業等の協力が得られる。民生委員や近隣の協力を得ながら、お茶会や夏祭り開催等、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年2回防災訓練時には行政区に回覧にて参加を呼び掛けている。その際には消防署員による緊急時の研修等を合わせて行っている。認知症について知って頂く為に、包括支援センターや認知症推進チームの協力を頂き、お茶会時に勉強会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回構成員に参加して頂き、日々の生活の様子、事業報告、質疑の応答にて質の向上に努めている。	区長、民生委員、地域包括職員、利用者、家族、近隣住民に、2年任期で委嘱し同意をしている。開催日を奇数月の第2金曜日午後2時と決め、利用者の動向、行事報告、防災に関する意見から質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや市役所と連絡を密にとり、相談や、研修を行っている。	この間の事件から、危機管理の強化の必要性を感じ、行政に相談している。また、警察による夜間巡視の強化を依頼している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針、倫理綱領を基に「身体拘束ゼロ」をおこなっており、職員も正しく理解し、徹底しており身体拘束は行っておりません。	社協全体で、身体拘束に関するアンケートを行い、定期的にチェックしている。内部研修やホーム会議でも職員の対応が身体拘束に当たらないか話し合い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。帰宅願望が強い利用者には、家族と相談しながら対応してもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員間で研修を行い、職員の周知徹底を図っている。また、虐待防止に関するアンケートを毎月実施し、支所内で虐待防止委員会を立ち上げ会議を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の生活を守る為に、月1回及び随時ホーム会議を開催している。成年後見制度について職員間で研修を行い、周知徹底を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、退所時には十分な説明を行い、納得して頂いてから書類に署名、捺印を頂き契約、解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員の中にご家族代表の方も参加して頂き、意見を反映している。ご家族、利用者に満足度千代宇佐を実施し結果を運営推進会議、家族報告会にて報告し改善に努めている。あんしん介護相談員2名が来所し、入居者に意見などを聞いている。	年4回家族報告会が開催され、1部は話し合いで2部は昼食会になっており、利用者や家族に喜ばれている。利用者と家族別々に事業所独自の満足度調査を行い、運営推進会議や家族報告会で報告がある。繰り返し意見を聞く機会があり、手厚く対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議を月1回及び随時開催している。その他、連絡簿、連絡帳を常時置きスタッフがいつでも意見や提案できる場を作っている。また、意見箱を設置している。	毎月ホーム会議を設けており、参加出来ない職員には連絡帳や連絡簿で提案出来る体制にある。職員から提案された意見は、直ぐに検討し実行されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規定を職員が常に閲覧できるように配置している。年2回自己評価を実施し管理者、係長が評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の自己評価時に希望の研修を確認し、勤務調整にて研修に参加している。常に相談できる環境づくりに努め、職員一人ひとりのケアに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、協賛かい主催の研修会に参加出来る体制作りを行っている。また、大崎市による認知症推進チームや、キャラバンメイト等にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に不安と混乱の中で生活して頂いて入る方については、傾聴し安心して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後2週間は暫定プランを作成、また、毎日生活状況を記録誌、その都度ご本人、ご家族が不安にならないように連絡を密に取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と、ご家族の意向を伺いながら必要としているサービスを見極めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物たたみ等、場面づくりを行いながら、支えん合う関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有する為に、面会時や随時電話、毎月のお手紙にて、一緒にご本人を支えていく関係作りを築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親せきの方々が来所しやすいホーム作りを努めております。また、ご家族の協力を頂き外出等を支援している。	家族との外泊や、海外在中の家族から毎週末、携帯電話に国際電話が入る利用者もあり、家族との関係が途切れない支援に努めている。歩いて行ける近隣の理容院を馴染みとして利用している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を大切に、プライドを傷つけないような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な情報などを提供する際は、いつでも相談できる体制作りを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや要望にお応えし、馴染みの家具や写真などをお部屋に飾るなど、雰囲気作りに努めている。	利用者には聞き取りで、家族には郵送で、満足度調査アンケートを取り、思いや意向の把握に努めている。日々のケアの中で、利用者の表情や行動から思いをくみとり笑顔になるポイントをつかむようにしている。利用者の買い物をしたいという希望があることを把握した。	本人希望の買い物の支援について検討することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントを活用しながら、その方の生活環境にあった関わり方を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時と、14時に健康チェック(検温、血圧、脈)を行い、早めの発見対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、ご家族、スタッフと話し合いながら作成している。	3ヶ月に1回の担当者会議で見直しを検討している。利用者、家族、職員で常に改善策を話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に生活の様子、健康状況、月1回の所見時にケアプランに沿った記録を行っている。また、ホーム会議にて職員間の情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の、個々人の要望に合わせてながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その時の、状況に合わせてながら、民生委員、ボランティア、消防署などの協力を頂きながら、防災訓練や行事等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々人のご希望に添ってかかりつけ医を決めております。	利用者の希望を大切に、かかりつけ医を決めている。協力医療機関がかかりつけ医の利用者には職員が付き添っている。その他の受診は、家族が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきについては、通院時に医師、看護師に報告し、状態に合った支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期入院になる場合には、ご家族、医師、看護師、管理者、介護支援専門員で情報交換を行っている。ホームでの生活が出来なくなる事も鑑み、特養施設への申し込みをして頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針の作成を行っている。施設内の看護師は不在であり、かかりつけ医の協力が得られない事から、現在看取りケアについては実施していない。	現在、看護師が不在のため看取りケアは行っていない。重度化した場合、病院への入院や特養へ入所できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練時には、消防署員により「防災について」等の研修や、消火器の使用方法を実践している。また、人材育成委員会の中でも「救急救命」についての研修が行われている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し、応援体制として地域住民、民生委員、消防団との連携が摂れる様にマニュアルを作成しております。	年2回の防災訓練では、民生委員、消防団、地域住民の参加協力が得られている。防災頭巾、懐中電灯も居室に備えている。居室入り口の「名札」は、裏返すと「避難済み」の表示になるよう工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保の為に、勉強会等も随時実施している。他者に漏れないような配慮を行っている。	一人ひとりを尊重した接遇やプライバシー保護に努め、利用者の生活パターンが継続できるよう支援している。月1回、日々のケアがサービスマニュアルから外れていないか確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いに傾聴し、普段から自己決定出来る様に働き掛けている。何度も同じ話をする方については、傾聴し思いを共有する事により、落ち着いて生活して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人がお部屋で過ごしたい時などは、日課や都合を優先することなく、その方に合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々人に合わせたおしゃれが出来るよう支援している。カットやパーマ、毛染め等は近くの美容院にご案内し、また、出張理髪もして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作りの際には利用者の意見を取り入れたり、季節や行事に合わせて献立を作成し。料理の話題を交えて楽しく頂いている。茶碗拭き、お膳拭きのお手伝いをして頂いている。プランターや畑に野菜の苗を植え収穫を楽しんでいる。	メニューは旬の食材、好み、バランスを考慮し職員が交代で作成し、定期的に栄養士のアドバイスを受けている。利用者は、手書きのメニューを見て、食事を楽しみにしている様子がうかがえた。また、テーブルを囲んで楽しく食事ができる和やかな雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフが作成した献立表は、栄養士にチェックして頂いている。個人毎のチェック表にて食事量、水分量を記入し、偏食のある入居者には代替食を提供したり、刻み食や摂取量の少ない方には捕食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア物品をスタッフが準備し、毎食後に声掛けにて清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人のチェック表にて排泄パターンを把握し、仕草などに観察しながらトイレ案内、介助を行っている。1名オムツ使用者がいるが、日中はトイレ案内、介助にて排泄し、夜間については、訴え時にオムツ交換を行っている。	チェック表から排泄パターンを把握し、本人の状態に応じトイレでの排泄支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時の献立に繊維質の食物や、乳製品などを取り入れるなどの工夫を行っている。状態に合わせて医師の指示、処方を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康状態に合わせて入浴して頂いている。ご希望に応じて日中、夜間入浴を行っている。	1日おきの入浴が基本になっているが、希望やタイミング等、利用者に合わせて支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて起床されたり、昼寝をされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「お薬説明書」は個人毎に綴り通院時に持参している。薬箱への入れ間違いがないかスタッフ2名で確認を行い、服薬の際にも入居者のお名前と日付を声に出して確認し服薬している。マニュアルに沿って対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの嗜好に合わせて提供している。楽しみとなるような行事を計画したり、掃除や野菜の収穫、洗濯物たたみ等の役割を持って生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者と一緒にドライブを兼ねて外出したり、外に出たい入居者様がいらした時には、スタッフが寄り添いながら支援している。	年間計画で、花見、新緑見物、互市等に出かけている。外出傾向を把握し、寄り添いながら支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方については、ご自身で管理出来る金額を所持して頂いているが、現在は出来ない為施設で管理している。外出の際などにご自分で好きな物を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に限らず、状況等に応じて通院結果や、外出での様子などを連絡しており、その際には入居者にも電話でお話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を作り出す為に、季節に合わせた装飾を行い、居心地の良い空間づくりに努めている。	食堂と居間の共用空間には、ソファがありゆったりくつろげるよう配置されている。手作りの日めくりカレンダーは、見やすく工夫されている。利用者と一緒に作成した季節感を取り入れた作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一画にソファを設置し、入居者同士やスタッフと談話出来るスペースがある。また、食事の際には入居者同士で会話のしやすい方との席を配置するなどの配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	随時、ご家族及び入居者とお話し合いをしながら行っている。ご自宅より馴染みのタンス等を持って来て頂き、居心地の良い空間づくりに配慮している。	居室は8畳の畳敷きである。内障子の掃き出し窓があり、災害時に安全な避難経路が確保されている。洗面台やタンスも設置されている。家族の写真や使い慣れたものを置いて、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、食堂、浴室等にさり気ない表示をしている。		